



ヨルダン：「イスラーム国」がヨルダン人パイロットを焼殺

2015年2月3日、「イスラーム国」がヨルダン軍のパイロットのムアーズ・カサーシバを焼殺して処刑する映像が出回った。映像は、おおむね以下の3つの場面によって構成されている。

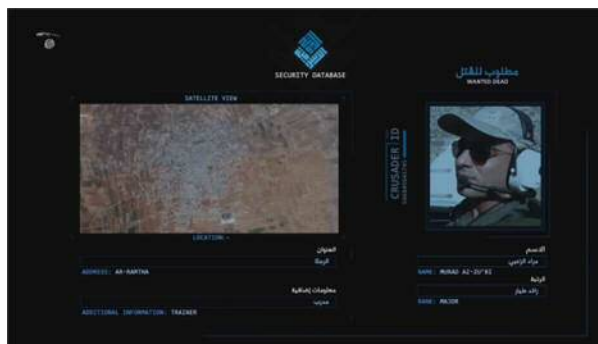
1. カサーシバ氏が語らされる形で、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ヨルダン、UAE、クウェイト、サウジ、カタール、バハレーン、オマーン、モロッコなどによる「イスラーム国」に対する空爆作戦の実態について説明する場面。また、カサーシバ氏が「イスラーム国」の主張を語らされる形で、「ヨルダン政府はシオニストの傀儡であり、ムスリムを守るといならばなぜヌサイリー体制（=シリア政府）やシオニストに対して戦闘機を差し向けないのか」と述べる。

2. カサーシバ氏の焼殺場面。

3. 「イスラーム国」がヨルダン軍のパイロットに対し金100ディナールの懸賞金をかけ、パイロットの氏名や住所を暴露して攻撃を扇動する場面。



写真：火を放たれるカサーシバ氏



写真：ヨルダン軍のパイロット殺害に懸賞金

評価

「イスラーム国」が人質を焼殺するという手法で殺害するのは、おそらく初めてのことである。ムスリムを焼殺するという行為は、地獄を象徴する火を用いた殺害である点、或いは最後の審判の際の復活を妨げるという意味を持つ点で極めて異例である。本稿執筆時点では、焼殺の衝撃があまりにも強いため、動画で発信した「イスラーム国」の主張やヨルダン軍パイロットに対する攻撃扇動の印象が薄くなっているようにすら感じられる。

ヨルダン政府は、カサーシバ氏が2015年1月3日の時点で処刑されていたとの情報を確認

したと発表すると共に、「イスラーム国」に対し報復すると表明した。1月3日の時点でカサーシバ氏が処刑されていたのならば、日本人誘拐・処刑事件の際に「イスラーム国」が発信した合計5点の動画・画像・音声の中で、カサーシバ氏の殺害を予告したことや、同人の安否情報や囚人との交換の可能性が「イスラーム国」とヨルダン政府との交渉の焦点となったことは、いずれも実質を欠いたものだったことになる。ヨルダン政府の反応としては、「イスラーム国」と関係のある死刑囚の死刑執行が取りざたされている。リーシャーウィー死刑囚は、「イスラーム国」が過日殺害された模様を納めた映像が流れた後藤氏との交換を要求していた人物である。しかし、これらの死刑囚はいずれも長らく組織を離れた人々であり、彼らの刑が執行されたところで「イスラーム国」にとって実質的な打撃とはならないだろう。

一方、ヨルダンは「イスラーム国」への主要な戦闘員送り出し国であり、2014年前半の時点の推計で2000人以上がシリア・イラクへと潜入している。このため、「イスラーム国」にとってヨルダンは本来人員をはじめとする資源の調達地であり、今般のような事件を引き起こしてヨルダンにおける資源の調達を妨げられる結果につながることは不利益な行動になるはずである。この点から、「イスラーム国」の側でヨルダンの位置づけが、資源の調達地から攻撃の対象へと変化した恐れが生じる。そのような認識の変化がないにも拘らず「イスラーム国」がヨルダンに対する攻撃や圧力を強化するとすると、それは「イスラーム国」にとって非常に重要であるイラク・シリア外部での資源調達への影響を省みない、自滅的な行為となりかねない。いずれにせよ、今後ヨルダン政府が自国内における「イスラーム国」とその関係者の活動を真剣に取り締まるようになれば、双方の緊張が増すことになろう。

また、今回の動画に現れた「イスラーム国」の主張は、「イスラーム国」対策の有志連合が抱える矛盾を突いたものと言える。シリア領で「イスラーム国」を爆撃する一方で、シリア政府を攻撃しないことは、シリア紛争において反体制派を支持したり、これに同調したりする側にとっては不満であり、「イスラーム国」の存在や活動に正当性を与える口実に見える。「イスラーム国」が、有志連合や国際社会が「シオニスト (=イスラエル)」によるパレスチナ人殺害を放置しているとの趣旨の主張をしたことも、アメリカなどの中東政策を批判する側が用いる「二重基準」批判に通じるものがある。これとは逆に、「イスラーム国」への対応こそが最優先であり、実効的な対策が急務であると考えられる側から見れば、シリア政府の打倒に固執し、「イスラーム国」対策で効果的な協力体制を構築できていない現状は不満であろう。「イスラーム国」の主張は、「イスラーム国」が東アラブ地域の国際情勢の隙間を突いて伸張してきた事実を示しており、その点はカサーシバ氏の焼殺とは異なる意味で重視すべきものである。今般の動画は、ヨルダンだけでなく有志連合諸国全体が、「イスラーム国」の伸張を許した政策上の矛盾を直視することを迫るものといえよう。

(イスラーム過激派モニター班)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

©各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.meij.or.jp/>